

第18回日本スカウトジャンボリー（18NSJ）の現状認識と今後の対応について

第18回日本スカウトジャンボリー実行委員会

1. 18NSJ実施判断について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現会場（東京都海の森公園）において従前の規模（1万人程度）での開催は、スカウトの安全を確保し、予定している通常の活動を行うことは難しいと考えます。

新型コロナウイルスの終息に関しては、いまだめどが立っておらず、日本全国から東京への移動や都内近郊でのプログラム展開についても感染拡大の懸念が大きいことから、今回のNSJを現会場において今までと同様に開催することは不可能であると判断いたしました。

2. 準備状況と現状認識について

実行委員会においては、18NSJを成功させるべく各委員が準備を行ってまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況、及び東京オリンピックの開催に関して不確定な状況であることから、様々な分野において確定的な結果を出せない状況でありました。

特に会場については、東京都との折衝を進めてまいりましたが、現段階においても正式な契約を結ぶには至っておらず、開閉会式、大集会の会場も未決定のままです。

また、東京都及びジャンボリーに関連する各企業や団体等についても、新型コロナウイルス感染拡大やオリンピック開催が不確定な状況においては、大会に関する話し合いや協力依頼を進めることが難しく、早くても2021年秋以降からとなるため2022年開催の準備が実質的に困難であると判断しました。

他県での開催についても、準備等が間に合わないことや全国から集まる懸念については東京と同様であり、会場の変更は難しいと判断いたしました。また、開催年の変更についても、東京都海の森公園の2022年からの開業や、日本連盟のみならず県連盟への事業にも影響が大きく、開催年の先送りも難しいと判断いたしました。

3. 18NSJは開催方法を変更して行う（新しい様式での日本スカウトジャンボリー）

NSJはスカウト及び日本連盟にとって最大かつ重要な行事であり、4年に一度のスカウトイベントを中止することは好ましくなく、また、18NSJはコロナ禍で停滞している全国の活動が活発になる契機になると考えます。18NSJは次の方針により計画を変更して開催することを提案します。

- ◆2022年度1年間をジャンボリー年間として、参加章を胸につけるなど100周年およびジャンボリーに対するモチベーションを維持する。
- ◆特定の期間（日程）において、地域や団でのジャンボリープログラムを展開し、オンラインでのつながりや結果を報告することによって、スカウトのプログラム参加章や表彰についても行うようにする。
- ◆開閉会式、大集会、キャンプファイア等についても、各地での開催、オンラインによるつながりで「共有体験」をできるようにする。
- ◆一定数の人数が集まれる場所を東京に確保し、1日型の「18NSJ大集会」を開催し、全国から実際に集まることにより、よりスカウト運動の壮さ、一体感、共有感をスカウトに経験してもらう（新型コロナウイルスの状況により慎重に検討の必要あり）。

4. 今後の対応について

実行委員会については、開催方法の変更に伴い、新たな目的、実施内容のもと新実行委員会を編成し、5月の理事会、評議員会等に向けて新たな計画をまとめ提案していきます。

これまで検討してきた基本実施要項については、テーマ等の基本要件は引継ぎつつ、開催方法等の変更に伴い必要な部分に関して変更を行います。

以上